

カトリック教会へのアッピール 福音の非暴力にあらためてコミットを

世界における正義と平和の実現にコミットするキリスト者として、私たちはあらゆる暴力にたいし、創造的でアクティブな非暴力を生きるように招かれています。教皇フランシスコが宣言された慈しみの聖年を覚え、この信念を確認するために、2016年4月11日から13日までローマにおいて、教皇庁正義と平和協議会とパックスクリスティの共催する「非暴力と正義の平和会議」に多くの国々から人びとが集まりました。

アフリカ、アメリカ、アジア、ヨーロッパ、中東、オセアニアから参加した神の民は、信徒、神学者、修道者、司祭、司教などで、参加者の多くは、抑圧と暴力を体験している共同体の現実からローマ会議に結集しました。私たちは、正義と平和の実践者として、フランシスコ教皇が会議に寄せられたメッセージの言葉「非暴力、とくにアクティブな非暴力の手段の再活性化は、必要また有益な貢献となるでしょう」を感謝いたします。

現代世界の現実を観る

私たちは苦悩に満ちた世界に生きています。それは、軍事化、経済的不正、気候変動、数知れない様々な暴力がもたらすトラウマと恐れの実現です。構造的な暴力が当たり前になってしまった現状において、キリスト教の伝統を生きる私たちは、イエスのビジョンとメッセージ、カトリック教会の生き方と実践、人類と地球のいやしと和解への使命の土台として非暴力があることを受け入れるように招かれています。

世界中で平和の実現に取り組んでいる人びとの豊かな具体的経験の多くが、この会議でわかちあわれました。ウガンダやコロンビアの武装した当事者たちとの勇敢な交渉、日本の憲法9条を守る働き、パレスチナの人びとに寄り添う歩み、フィリピンの農村地帯での平和教育などのストーリーは、様々な異なる暴力的な紛争における非暴力の実践のパワーと創造性に光を与えています。さらに、最近の学術研究で、非暴力の抵抗は、暴力的な抵抗より2倍の効果があることが実証されているのです。

今こそ、私たちの教会がアクティブな非暴力の霊性と実践を促進し、効果的な非暴力の実践のトレーニングを教会共同体に行うために、人的、経済的リソースを注ぐことが求められています。このような営みすべてにおいて、イエスこそ私たちの模範でありインスピレーションです。

イエスと非暴力

構造的暴力がはびこっていた社会にたいし、イエスは神の無条件の愛に根ざした新しい非暴力の秩序を宣言されました。イエスは弟子たちに敵を愛しなさいと教えられましたが（マタイ5：44）それはすべての人を神の似姿として尊重し、悪を行う者に暴力的な抵抗をせず（マタイ5：39）、平和を築く者として許し、心を改め、豊かに憐れみを生きることを意味しています。（マタイ5：7）イエスは、萎えた手の男を安息日に癒やし、（マルコ3：1-6）神殿において権力者に対立し、神殿を清め（ヨハネ2：13-22）、姦通した女性を裁く男たちに、静かに、しかし毅然として挑戦

し、(ヨハネ 8 : 1 – 1 1) 、ご自分の死の前晩、ペトロに剣を置くように命じられて (マタイ 2 6 : 5 2) 非人間的な構造に対して積極的に抵抗し、非暴力を身をもって生きられたのです。

イエスの非暴力は弱い無抵抗ではなく、行動としての愛の力です。イエスはご自分のビジョンと実践において、非暴力の神を顕し、体現されました。この真実が、十字架と復活によって明らかにされているのです。そして私たちが非暴力の平和構築を深めるように招かれます。

神の言葉、イエスの証は、決して暴力、不正、戦争を正当化するために利用されてはなりません。私たちは、神の民が、幾度も戦争、迫害、抑圧、搾取、差別に加担して、この福音の中心的メッセージを裏切ってきたことを告白します。

私たちは、「正義の戦争」はありえないと信じます。聖戦論は、戦争を防ぎ、あるいは制限するよりも、支持するために、たびたび利用されてきました。「正義の戦争」を示唆することは、紛争の非暴力的な変革の手段と能力を開発する道徳的な責任を弱体化するものです。

私たちは、福音的非暴力と矛盾しない新しいフレームワークを必要としています。確かに最近のカトリック社会教説は、新しい道を切り開いてきました。教皇ヨハネ 2 3 世は、戦争は、人権を取り戻すための適切なやりかたではないと述べています。教皇パウロ 6 世は、平和と開発を繋ぎ、国連において「ノーモア戦争」とアピールされました。ヨハネパウロ 2 世は、「戦争は、悲劇の過去と歴史の問題」であると語り、ベネディクト 1 6 世は、「敵を愛することは、キリスト者の革命の核である」と述べ、フランシスコ教皇は、「キリスト者の真の力は、すべての暴力を放棄する真実と愛の力である。信仰と暴力は交換性がない」と話されています。さらに戦争の廃絶を強く訴えておられます。

私たちは、カトリック教会が、福音的非暴力に根ざした正義の平和のアプローチを深めるよう提言します。正義の平和アプローチは、平和を築き、暴力的な紛争の傷を癒やし、防ぎ、鎮めるビジョンと倫理を提供するものです。このような倫理は、人間の尊厳と豊かな人間関係へのコミットメントも意味しています。

福音的非暴力と正義の平和を生きる

このような心で、私たちは、正義の平和への歩みにおいて、教会がアクティブな非暴力の理解と実践を深めるよう、積極的に努力します。このセミナーにおいてわかちあわれた希望と勇気のストーリーに励まされ、チャレンジを受けたイエスの弟子として、私たちは、愛する教会に呼びかけます。

- 非暴力についてのカトリック教会の社会教説を深め続けること、とくにフランシスコ教皇が、非暴力についての回勅を発表されるようお願いいたします
- 福音的非暴力を秘跡典礼を含む生活全体の中に入れ込むこと、教区、小教区、すべての組織、学校、大学、神学校、修道会、ボランティアのネットワークなどにおいて、福音的非暴力が生き方となるように。
- 非暴力の実践と方策を推進すること（非暴力抵抗、修復的司法、トラウマヒーリング、非武装の市民保護、紛争転換、平和構築の方策など）
- 非暴力と正義の平和のビジョンと方策を持って、とてつもない現代の危機に応えるため、教会が非暴力についてのグロ

ーバルな話しあいを始めること、さらに諸宗教の人びと、広いレベルでのすべての人びととの繋がりを構築する

- 聖戦論をもちや使わず、また教えないこと。戦争と核兵器の廃絶を訴え続けること
- 不正の世界権力にチャレンジし、正義と平和の働きのために自らのいのちを危険にさらしている非暴力の活動家を支援し、守るために、教会が預言的声をあげること

すべての時代において、聖霊は、時の課題に応えるための知恵を教会に与え続けられます。フランシスコ教皇が「分割払いの世界戦争」と呼ばれた暴力のグローバルの広がりにたいして、訴え、祈り、教え、決定的な行動に立ち上がることが私たちに求められています。私たちの共同体と組織は、福音の非暴力をさらに前進させるために、世界の教会と聖座との協力を続けたいと望みます。

Pax Christi International, Rue du Progrès, 323, 1030 Brussels, Belgium. Phone: ++32 (0)2 502.55.50